

「阪井のおばちゃん、ありがとう」

音楽療法士 林 友子

(作業療法分野修士 1年大阪で受講)

受講して感じたことは、毎日当たり前前に過ごしている環境が実は当たり前でなかったということでした。

*住居（部屋）がないと生活保護等の受給ができない。

*履歴書に『現住所』がないと就職できない。

*16歳で精神病院に入院し、50年も入院し続けて人生を送らざるを得ない人がいる。

*精神障害者の人が病院に入院すると、家財道具が捨てられてしまう。などなど。

そして、ケースワーカーと呼ばれる職業の人が、何を、どこまでしないといけないのかを把握出来てない実態に驚きました。

「知らなかった…。で済ませないでほしい。」

というおばちゃんという言葉に同感でした。

そのような人々に手を差し伸べて、きちんと立ち上がって行動できるようにしているところが、阪井のおばちゃんの凄いところだと思いました。当たり前前にできる人って、そんなにいないと思うからです。

自分にできることを改めて考えさせられ講義でした。

特に、流し台の隣の、ふつうはガスコンロを置く台を工夫し、

コンビニで買った食材をあたためるだけの暮らしなら電子レンジ、ヘルパーがきて料理してくれるなら火事にならない電磁調理器を置く、という風に、

「その人がその人らしく生きるためのアイテムを置く。」

「スキルによって物を換える」

というメッセージが、もの凄く心に刺さりました。

自分にできることを改めて見直そうと思いました。